

はじめに

平成の大合併を経て、全国各地では様々なかたちで新たな地域づくりの取り組みが始まっています。その中で、NPOの持つ迅速性や専門性を活かし、行政との協働により、地域課題を解決していこうとする動きが広がっています。

しかしながら、NPO、行政双方とも互いの情報や理解の不足や、協働が進めやすい仕組みの不在等により、対等なパートナーとして一緒に課題解決に取り組む意識や姿勢が、十分であるとはいえない現状もあります。

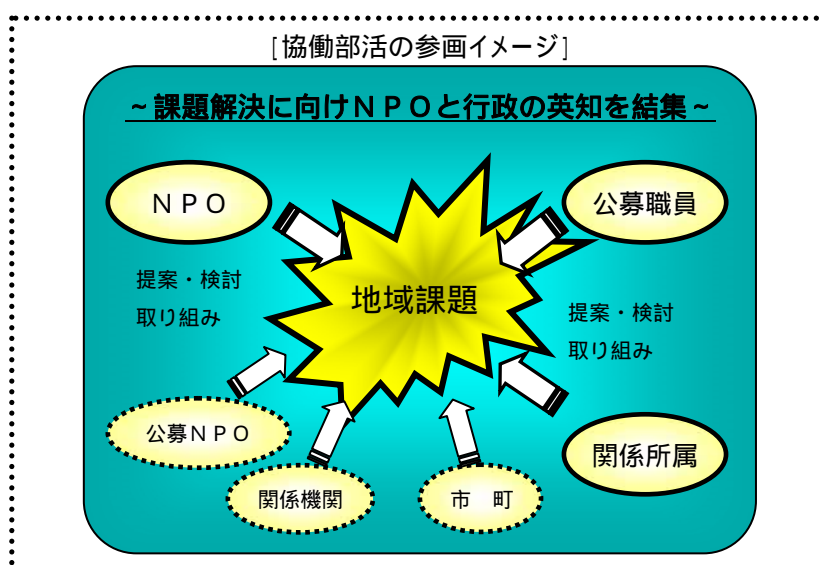
今後の地域を考えたとき、NPOと行政の協働がひとつの大きな仕掛けとして、より住民のニーズや感覚に沿った公共サービスの提供や、課題解決の取り組みにつながると考えています。

「しが協働部活プロジェクト」は、提案されたテーマに賛同したNPO・行政を中心に参画する人たちのやる気によって、従来は対応が難しかった分野横断的な課題解決を図っていこうとする滋賀県独自の試みです。

3年間という期限設定をして取り組みを始め、すでに2年が経過したことから、これまでの取り組み経過やそれによる成果や、明らかになった課題などを中間的にまとめ、最終年度の取り組みにつなげていきたいと考えています。

この協働部活の取り組みが、NPOと行政のパートナーシップによる新しい「公共」のあり方を作り上げていくきっかけになることを大いに期待しています。

しが協働部活プロジェクト「環境学習」部員一同

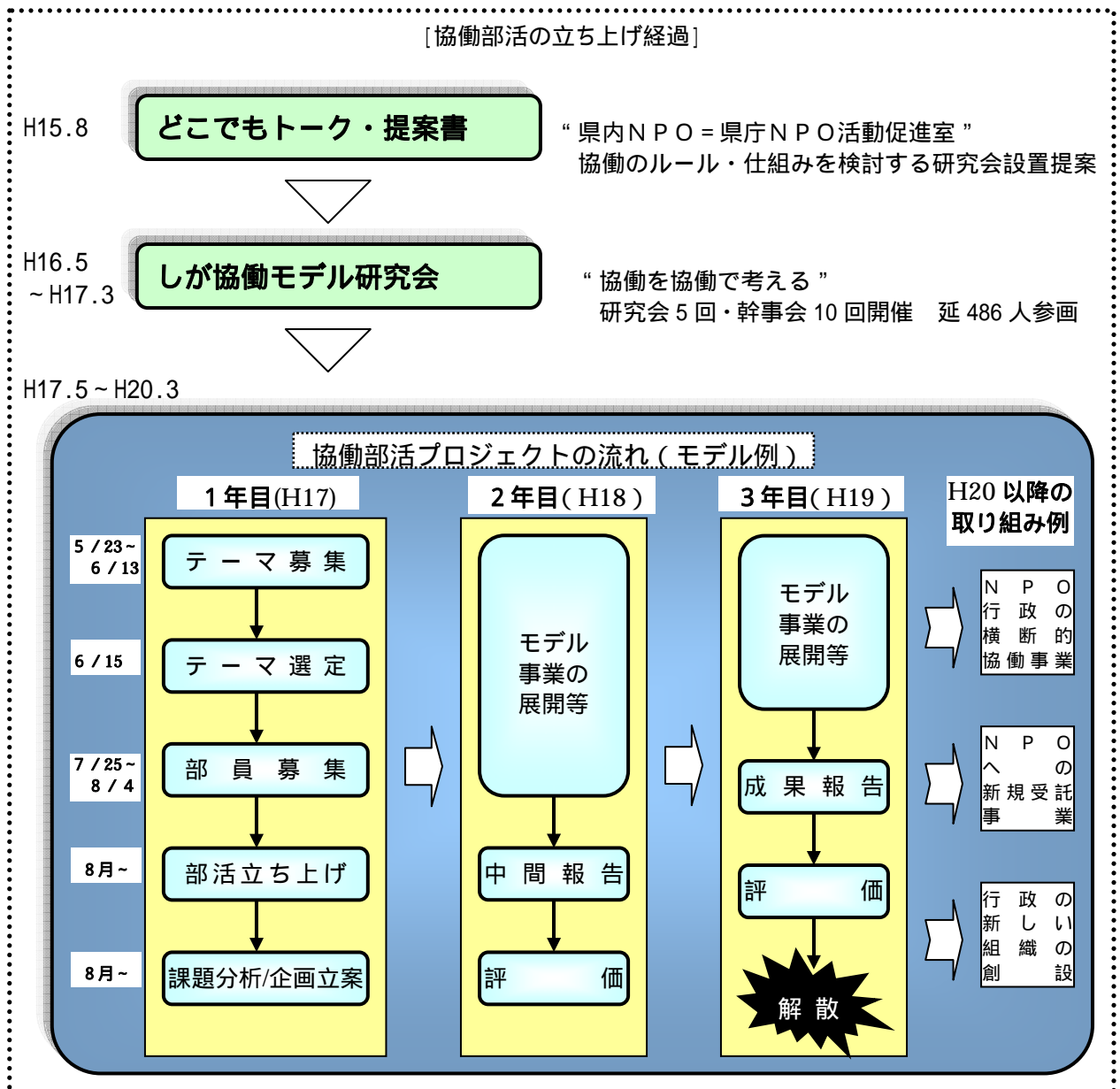


取り組み経過

平成 15 年度に政策研修センター実施の N P O 協働研修受け入れ団体を中心とした複数 N P O から「どこでもトーク」の申し出があり、今後の協働について意見交換を行った。

その後、具体的な提案書が提出され、その中に協働を考える研究会の設置提案があり、県としてもその必要性を感じていたことから、平成 16 年度に N P O 関係者、学識経験者、県行政職員（17 名）で構成する「しが協働モデル研究会」を立ち上げ、N P O と県行政の協働を推進するためのルール・仕組みについて検討を行った。

その最終報告において、協議のテーブルづくりなどとあわせて、協働の先行モデル事業として“協働部活プロジェクト”が位置づけられ、平成 17 年度から実施していくこととなった。



(提案テーマ一覧)

【NPO提案】

採否	提案テーマ	提案NPO	提案概要
-	早崎内湖再生プロジェクト (環境・観光・農業を視野にした計画策定)	早崎ビオトープネットワーク (びわ町)	早崎内湖の再生計画・保護管理計画を地域とともに策定し多面的な利用価値のある自然再生モデルを目指す
-	環境との共生に関する多言語プログラム	インターナショナル滋賀 (草津市)	外国籍県民への環境(特にゴミ)に関する情報の多元化、実効性のある伝達手法の検討を行い共生社会を目指す
-	不登校児童生徒への学力支援プロジェクト	NPO法人滋賀教育サポート (大津市)	不登校児への学力支援を個別的に行い希望にそった進学や学校復帰の促進を目指す
-	琵琶湖南湖湖底の再生による 南湖水域環境改善事業	NPO法人瀬田川未耒塾 (大津市)	水質悪化や航行障害を引き起こしている南湖の沈水藻を除去・再利用するとともに除去跡に貝類を育成して水質保全を目指す
-	琵琶湖人工護岸の自然再生	志賀津会 (守山市)	地域住民とともに人工護岸を自然再生し水生生物のモニタリング調査を含めた持続的な維持管理を目指す
-	南湖環境復元事業 (例えば葉山川周辺水質浄化事業)	志賀津会 (守山市)	琵琶湖への直接流入排水を内湖に導入するなど面源負荷低減について住民とともに調査研究し水質向上を目指す
-	児童福祉施設と里親家庭を補完する 小規模養育ホーム運営の試み	NPO法人わらべ村 (東近江市)	心理的ケアを必要とし里親だけでは対応が困難な児童を家という利点を残しつつ専門施設と連携して健全育成につなげる
選定	地域で支える安全安心なまちづくり事業 —まちの保安官制度	NPO法人西大津駅周辺防犯 推進協議会(大津市)	犯罪の未然防止を主にした「まちの保安官」制度を研究検討し警察依存型から地域自衛型防犯への転換を目指す
選定	しがみん環境学習推進ネットプロジェクト	琵琶湖博物館はしかけグループ 「びわたん」(草津市)	環境学習推進施設をネットワーク化し学習者・NPOにとって分かりやすく効率的な環境学習滋養モデルを目指す
選定	滋賀の環境学習を変える	NPO法人NPO子どもネット ワークセンター天気村(草津市)	縦割りの県庁内担当者会議を改革して環境学習事業の体系化を図るとともに学習者の生きる力になる環境学習を目指す
-	地域ねこの共生プラン	ねこばた会議 (大津市)	地域ねこの繁殖制限実験や接し方を普及啓発し適正な飼育を広め動物との共生社会を目指す

【県行政提案】

採否	提案テーマ	提案県所属	提案概要
-	みんなで森林づくり —流域の特性に応じた森林整備活動と県民協働 について(東近江振興局内をモデルとして)	東近江地域振興局 森林整備課	荒廃が進む人工林・里山について関係者・住民とともに情報を共有しながら対策を検討し森林整備活動の拡大・効率化を目指す
-	織山の里山林と歴史遺産を活用した地域の活性化	教育委員会 安土城郭調査研究所	安土城跡がある織山の荒廃対策・維持管理を地域とともに進め里山と歴史的遺産の保全と地域の活性化を目指す
選定	持続可能な社会を実現するための県民行動とは？ —フードマイレージ・ウッドマイレージの低減	琵琶湖環境部 水政課	木材や食品の輸送にかかる環境負荷を表すマイレージ指標を調査研究し環境負荷の低い消費行動・地産地消の推進を目指す
-	環境・健康・食 ～安心・安全のためのリスクコミュニケーションの推進	琵琶湖環境部 環境管理課	風評に惑わされがちな化学物質などの基礎知識や対処方法の共有化を住民とともに進め適正なリスク管理を目指す

(選定方法)

「しが協働推進ボード」(座長：新川達郎 同志社大学大学院教授)で、社会性、協働の必要性を中心に検討され、4件が選定された。

なお、環境学習関連についてNPOから2件提案されていたため、合同で取り組むという条件で選定された。

(合同協議・部員募集)

環境学習については、選定条件をふまえて天気村とびわたんで話し合いが行われ、

環境学習を推進していくための新たな視点や手法を合同して検討、実施していくことで合意し、テーマも統一テーマとして「つながる・かがやく・かわる～しが環境学習推進ネットプロジェクト」とした。

[環境学習部活の立ち上げ経過]

協働部活プロジェクトテーマ提案概要

【びわたん】

課題認識 >>>

近隣の各施設で各種プログラムが実施されているが単発で終わっている。

解決方向 >>>

体系的につながったネットワーク構築で、効率的な機会提供ができるとともに、連携交流により関係者のレベルアップが期待できる。

【天気村】

課題認識 >>>

県内で各主体が多様なプログラム提供しているが非効率、分かりにくい、受け手も飽和状態である。

解決方向 >>>

各素材が重層的な相互協力関係を築くことにより、低費用・低労力で生き活きとした横断的な取り組みが期待できる。

6~7月
協議

7月

合同部活
の合意

[統一 新テーマ]

つながる・かわる・かがやく「しが環境学習推進ネットプロジェクト」

7月

県庁内
部員公募

8月

合同部活
立ち上げ

エコライフ推進課
環境学習支援センター

公募県職員（5人）
環境学習関係者（2名）

共有化された意見・提案

【現状と課題】

- ・各施設や所属がそれぞれのミッションで実施していて、連携がなく内容や時期にも重なりがありムダ・ムラ・ムリが生じている。
- ・子どもが継続・体系立てて学べる仕組みがない。
- ・環境学習で学ぶことと実生活との結びつきが弱く行動に表れていない。（目的が不明確）
- ・学習者がどれを選んでいいのか分かりにくい。
- ・参加者が同じ顔ぶれで広がりがない。
- ・環境学習に取り組むのは一部の好きな人（先生）だけという意識が強い。
- ・環境学習は難しく面倒だという意識が強い。
- ・環境学習がスキルとして認知・評価される仕組みがない。

【解決のために取り組む内容】

- ・協働部活の視点から既存施策をブラッシュアップしてよりよいプログラム提案を行う。
県庁内連携方策を検討・提案（H18～H19）
- ・新たに様々な分野や施設をつないだプログラムを実施しその効果を検証する。
（仮称）地域安心学校防災訓練プログラムの実施（H18～H19）
びわたん企画（施設間連携）の実施（H18～H19）
- ・プログラムを分かりやすくするために「質」を表す指標・シートを作成する。
- ・広げていくためにおしゃれ感、LOHASの視点に配慮する。
- ・参加者のメリットに配慮する。

構成者紹介

協働部活プロジェクトは、多様な観点から課題に対応するため、NPO関係者、行政担当者、行政公募職員、部活から要請した専門家などが参画して取り組みを進めています。

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント

写 真
似顔絵

プロフィール

コメント